

# こしえるびと

つむぐストーリー vol.123

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。  
“黄金の郷”いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”の  
メッセージをシリーズで紹介していく。

## 農業の明るい未来のために

### 農業を実践したい

春の日差しの下、赤く色付いたイチゴが艶やかに光るハウス内。吉田成美さんは、一つ一つのイチゴを見つめながら管理作業に精を出す。

「食べるものを自分で作りたい」と高校で農業を選択し、卒業後は岩手県立農業大学校に進んだ。米・畑作を専攻し、ラジコンヘリコプターの操縦資格も取得。卒業後は、合併前の旧岩手南農協に就職し、米やイチゴ、トマトなどの営農指導を12年担当した。

トマトを受け持った時、同年代の生産者の活躍に目を見張った。近年は新規就農する30代の生産者も多く、農大と一緒に農業を志した同級生は、経営者として実績を残し始めていた。30歳ごろから「自分で農業をやってみたい」と思うようになり、2024年に退職

を決意。同時に就農した。

### 指導したことを振り返りながら

ワンストップ新規就農相談窓口を数回利用し、イチゴ用の設備がある大東町摺沢地内の遊休ハウスを借りた。ハウスは自宅の近くが理想だが、用水の確保や圃場選びなどの基盤の方が大事だと考えて今の場所に決めた。

就農し、自ら行うイチゴ栽培で、営農指導をしていた時の考えを実践している。自分の指導が正しかったのかわからないと思うポイントもあるが「やりたかったことを試せることがやりがい。失敗しても新しい発見につながる」と成美さん。JAいちご生産部会の生産者仲間や他品目の若手生産者もハウスに様子を見に来てくれて、情報交換を行っている。

### 地域農業の情報発信を担って

成美さんが住む大東町猿沢地区では、地域農業を守り次世代につなぐための地域計画を作成しており、成美さんも計画づくりに携わる。多面的機能支払制度や中山間地域直接支払い制度を活用する組織の事務局も担う予定。「農業はやめたが農地は所有している」、「地域の生産者に耕作をお願いしても、引き受けてもらえない」、「引き受けてもらえても代が変わるとその経緯が分からなくなる」など、農地が抱える問題は多い。「これからの世代に引き継いでいくために、今整理が必要」と成美さんは使命感を持って取り組んでいる。

「農業に関心を持ってほしい。農業で地域を盛り上げるため、これからは情報発信にも力を入れていきたい」。成美さんの挑戦は始まったばかりだ。

大東町猿沢 吉田成美さん



## PROFILE

吉田 成美さん (36)

Shigemi Yoshida

大東町猿沢

1989年大東町猿沢生まれ。一関二高、  
県立農業大学校卒。卒業後は岩手南農業  
協同組合(当時)に入り、主に園芸品目の  
営農指導を担当する。2024年退職し、  
就農。イチゴ4畝、水稲10畝。両親と3人  
暮らし。

